



学校便り「尚徳」1月号

第474号

鳥取大学附属小学校

平成24年1月31日

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明教授（地域学部）



目標をもって

副校長 北村 順子

穏やかに明けた平成24年。1月2日、恒例の箱根駅伝を観ることから私の一日は始まった。

午前八時、東京大手町のスタート地点に第一走者が並ぶ。号砲と共に一斉にスタート。テレビの画面には、必死の形相で走る選手、余力を残しながら冷静に走る選手、いろいろな選手の表情が大写しになる。

今年の往路のテレビ視聴率は約28%。派手なパフォーマンスがあるわけではない、著名なタレントが出演しているわけでもない、普通の大学生がただ走っている姿を映しているだけなのに、なぜ多くの人がひきつけられるのだろう。それは、「目標に向かって努力することのすばらしさ」ではないだろうか。各選手がこの場で走ることを、まず大きな目標に、与えられた区間を1秒でも速く完走して次の走者に襷をつなぐことを、今現在の目標に、一生懸命ひたすらに努力する姿が、感動を呼ぶのだと考える。

壮大な目標、すぐに手に届きそうな目標、段階は様々だが、「目標を定める」ということはとても意義深いものだと思う。日々の自分を見つめ、弱みを補い、強みを伸ばす目標を設定する。目標が決まれば、達成に向けて見通しをたて、達成のための方策や手だてを考える。つまり作戦である。目標は具体

的なものに限る。「本をたくさん読む」より「本を1年間に100冊読む」というように、数字を明示することが大切になってくる。1年間で100冊読むためには、1ヶ月〇冊、1週間に〇冊、というようにより細かな目標が見えてくる。1日のうちで読書の時間をどう捻出するか、ライフスタイルを考えることにも繋がってくる。そして、一度決めたら継続すること。目標が具体的であればあるほど達成感も得られる。このサイクルが生き生きと充実した生き方に繋がっていくように思う。

冬休み明けの集会で、各学年の代表の児童が自分のめあてを発表してくれた。どの児童も「がんばるぞ」という意欲が顔にみなぎっていた。ただ何となく日々を過ごすのではなく、「今年はこの点をがんばる」と自分なりに焦点化することによって、他のことに対しても波及的に意欲が湧いてくるように思う。

一年の計は元旦にあり。私自身も、子どもたちに負けないように、明確な目標をたてて日々精進せねばと思いを新たにした辰年の幕開けだった。



【学校保健委員会】



12月15日に全保護者を対象にした第2回学校保健委員会を開催しました。小枝校長先生より「正しく知って病気を予防しよう～冬こそ寒さに負けない

心と体をつくるチャンス」と題し、講演をしていただきました。より良い生活リズムに加え、風邪対策として、正しいうがい、手洗い、加湿、咳エチケットが大切であることに改めて気づかされました。また、学校医の先生方からもご指導いただき、子どもたちの健康について考える有意義な時間となりました。

今、鳥取市内もインフルエンザが流行ってきているようです。すでに学級、学年閉鎖になった学校もあり、鳥取県内全域にインフルエンザ注意報が発令され

ています。今後も子どもたちが元気に過ごせるよう、学校でもインフルエンザや風邪対策に努めているところです。ご家庭でも手洗いやうがい等の声かけを引き続きよろしくお願いいたします。

